

平成 26 年 5 月 29 日

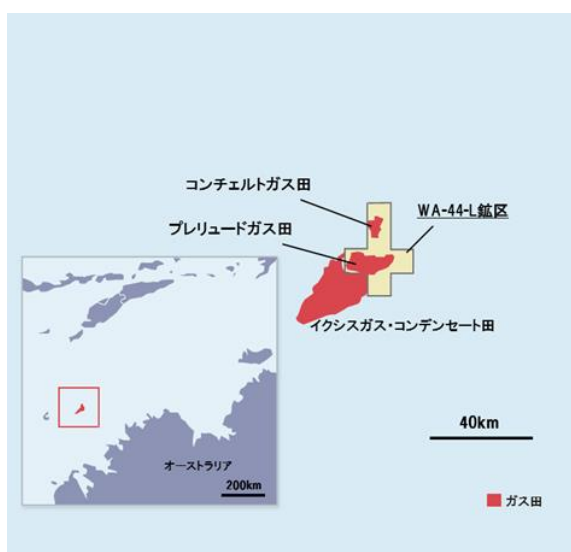
各 位

会社名 国際石油開発帝石株式会社  
代表者名 代表取締役社長 北村 俊昭  
(コード番号 1605 東証第一部)  
問合せ先 広報・IR エグゼクティブ・マネージャー 橘高 公久  
電話番号 03-5572-0233

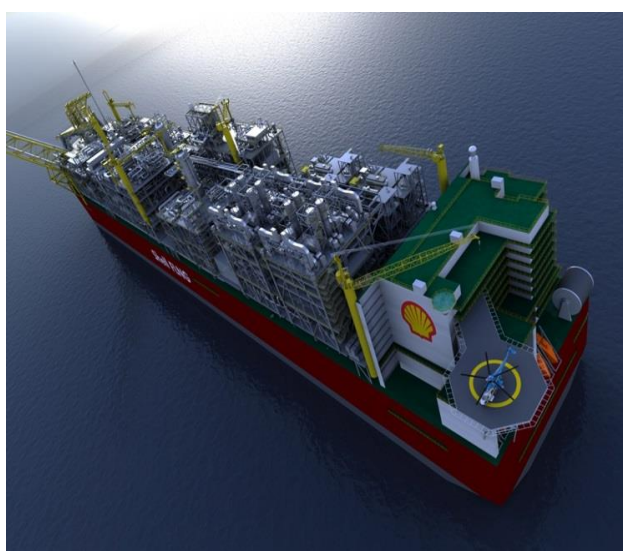
## オーストラリア プレリユード FLNG プロジェクト 本邦買主 2 社との液化天然ガス (LNG) 売買の基本合意について

国際石油開発帝石株式会社（以下、当社）は、子会社のINPEX Oil & Gas Australia Pty Ltd（以下、IOGA社）を通じて、オーストラリア連邦西豪州沖合WA-44-L鉱区にてシェル社の子会社がオペレーターとして開発中のプレリユードFLNGプロジェクト（以下、本プロジェクト）に参加しておりますが、このたび、東京電力株式会社（以下、東京電力）および静岡ガス株式会社（以下、静岡ガス）との間で、本プロジェクトから生産されるIOGA社権益（17.5%）相当分の液化天然ガス（LNG）の売買について、それぞれ基本合意に達しましたので、お知らせいたします。

本プロジェクトは、浮体構造に天然ガス液化設備を搭載したフローティングLNG（Floating LNG：FLNG）方式を採用したプロジェクトであり、このたびの基本合意は、当社初のFLNGプロジェクトにおけるLNG販売となります。



ロケーションマップ



プレリユードFLNG施設（イメージ）

# 国際石油開発帝石株式会社

## INPEX CORPORATION

本プロジェクトは、西豪州ブルーム市の北北東約475キロメートルの沖合に位置するプレリユードガス田およびコンチェルトガス田より、年間約360万トンのLNG、年間約40万トン（ピーク時）のLPGおよび日量約3.6万バレル（ピーク時）のコンデンセートをFLNG方式により生産・液化・出荷するプロジェクトであり、当社は2012年6月に本プロジェクトの17.5%の参加権益を取得しました。シェル社の子会社がオペレーターとして67.5%の参加権益を保有し、韓国ガス公社（Korea Gas Corporation）の子会社、台湾のCPC Corporation, Taiwanの子会社も、それぞれ10%、5%の参加権益を保有しています。

本プロジェクトは、2011年5月にプロジェクトの最終投資決定を行い、2007年初めのプレリユードガス田発見からおよそ10年での生産開始を目標として、2013年12月にFLNGの船体部分の進水式を執り行うなど、順調に開発作業が進んでおります。

このたび基本合意に達した内容は、本プロジェクトから生産されるLNGのうち、IOGA社権益相当分である年間約63万トンのLNGについて、2017年から8年間にわたり、東京電力に対して年間約56万トン、静岡ガスに対して年間約7万トン（いずれもプラトリー数量）を、Delivered Ex Ship（着船渡し）にてそれぞれ販売するものです。当社としては、IOGA社権益相当分のLNGの全量が日本買主に仕向けられることで、日本へのエネルギー安定供給に貢献するものと考えております。

当社は、今後LNG売買契約の締結に向けて、引き続き両社と協議を進めてまいります。

当社は、オペレーターとして開発作業を進めるオーストラリアのイクシスLNGプロジェクト、インドネシアのアバディLNGプロジェクトをはじめ、国内外で需要が高まるクリーン・エネルギーとしての天然ガス（LNGを含む）事業に多数参画しており、今後も天然ガスの安定供給に貢献してまいります。

以上